

## 村内施設・道路等 復旧状況調査

平成30年6月12日（定例会会期中）  
議員13名、事務局2名、建設課3名

村内施設・道路等の復旧状況の調査を行った。長野区を通る県道河陰阿蘇線 開通区間約5km。

土砂崩壊箇所の復旧、安全施設の復旧工事が完成し安全に通行できることを確認した。この区間は今後村道になる。道路の幅員や道路線形等を熱心に調査した。



開通した河陰阿蘇線



災害公営住宅予定地

旧長陽西部小学校グラウンドを調査。ここは西部地区の災害公営住宅が30戸ほど予定されている。グラウンドの広さや現道路との取付等をしっかりと現地確認した。



右岸側仮設備状況

新阿蘇大橋建設現場の河陽側から現在の進捗率や仮設状況の説明を国土交通省熊本復興事務所より受けた。現在は左岸側の仮設備の建設と右岸側の土砂撤去が行われていた。全国でも類のない仮設備である。

斜向エレベーターは11トンダンブカー2台が載るサイズで、工事規模の大きさに驚いた。新阿蘇大橋の橋脚は一番高い所で100mの高さで、歩道も出来る予定である。

現在は南阿蘇大橋付近の取付部の法面補強工事が完了し、橋本体の補強・落橋防止装置の工事に着手予定。



新阿蘇大橋の説明を聞く議員



大規模崩落現場の復旧状況

阿蘇大橋崩落復旧現場は以前調査した時よりかなり工事が進んでおり、崩落法面にも野草が再生していた。補強土壁も以前より丈夫な物が出来て、これからの法面工事等は無人操作ではなく有人施工ができるそうだ。崩落前の国道57号の姿も少しずつ原型が出来て、これからは水道管や電線線の埋設・水路工事が施工される予定だ。立野側にあった橋梁の復旧はこれから調査・設計に入る。

現場も昼夜作業され、一日でも早く復旧出来る様に頑張っておられる復興事務所の職員・工事関係者に感謝しながらの調査・確認であった。